

## 夏目漱石『夢十夜』より 第三夜、第六夜、第九夜、第十夜

**第三夜** 「自分」は、六つになる自分の子を負って闇のなかを歩いている。その子が、大人のような言葉つきで、「自分」の心を見透かしたような事を言い始める。「自分」は徐々に怖くなっていき、森に子供を捨ててしまおうと思いつきながら歩き続ける。…なんとも気味の悪い話ですが、私には、とても魅力的な作品に思えるのです。聴いているうちに、どんどん怖さが増していくような朗読に挑戦したいと思っています!ご期待ください。

**第六夜** 「第六夜」は、漱石が芸術の究極論を述べていると思います。芸術は万物の創造主が創作した物であり、人間はその作品を作るのではなく掘り出すのだという芸術観。そして天下の名工運慶こそは、仁王を掘り出し得た真の芸術家だと。ただ結末で明治の芸術家は掘り出し得ていないと結んでいる。これは漱石自身が小説家として、完成一步手前ではなかろうかと感じていたかも知れない。漱石のその考えを汲取って朗読ができればと思います。

**第九夜** この作品は、語り手が、自分の見た夢のことを語るのではなく、夢の中で母から聞いた話を物語るという形で作られています。母の話す内容を一つ一つ映像化しながら聴いた結果として、その映像に基づいてこのように魅力的な語り直しができるのでしょうか。幼いわが子を慈しみながら、夫の無事をひたすら祈る妻の心情に寄り添って頂けるように、「第九夜」に漂っている静けさと陰影、湿りけ等を丁寧に音にしていきます。

**第十夜** 「第十夜」には、溢れる色彩、乾いた空気感のなかで、く関人の上にくるぶる気さくな好男子・庄太郎が遭遇した不思議な出来事が描かれます。「第十夜」の語り手は、健さんが語ったことを語り直しますが、その健さんは、庄太郎が語ったことを語り直している…。漱石は夢を舞台にして、さまざまな語りの実験をしているのかもしれない。ふさわしい声と表現を見つけるのも楽しい実験のようです。

## 芥川龍之介『蜘蛛の糸』

極楽と地獄、二つの空間がキラキラ光る蜘蛛の糸で繋がって、一つの大きな世界として巧みに描かれています。泰然とした時間が流れている極楽と、真っ暗でおどろおどろしい地獄。天と地という空間的な隔たりだけでなく、時間や空気の流れが大きく異なっていることを踏まえて、声に反映させたいと思っています。登場人物と語り手の体温が感じられるような朗読を目指します。皆様の読後感が充実したものとなりますように。



◆開演日時  
**11月15日(火)**  
15:00~ / 19:00~

◆料金  
前売 2,000円  
当日 2,500円

**出演**  
朗読：**石田麻利子**  
大島守人、鈴木孝治、加藤咲子  
作曲・ヴァイオリン演奏：宗川論理夫



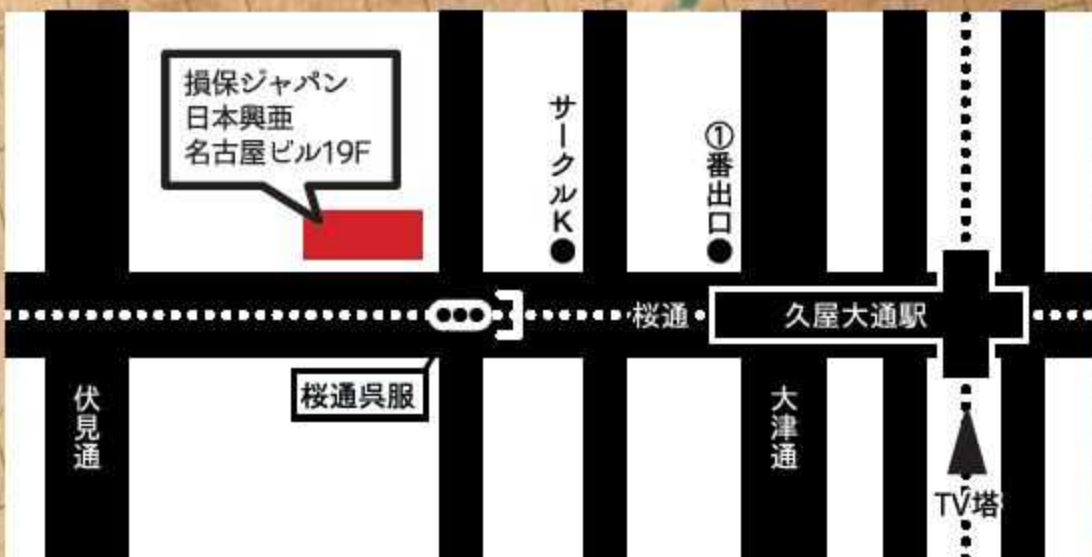
◆石田麻利子 プロフィール  
アナウンサーとしてキャリアを積む傍ら朗読を研究し、現在は朗読家として活動の場を広げている。2001年から朗読の指導も開始。今回は、俳優・NHKカルチャー朗読教室受講生らと共に、大島守人…存在感のある俳優としてTVや舞台等で活躍。鈴木孝治…演劇出演や朗読会主催など精力的な活動を通じ朗読の魅力を広めている。詩吟の師範。加藤咲子…朗読で培った豊かな音声表現を生かして「読み聞かせ」でも活躍。

**第一夜**  
◆太宰治『葉桜と魔笛』 朗読：竹元まき子(ことばの会えくせるしあ) 伴奏：長澤映子(フルート)  
◆森鷗外『最後の一句』 11月8日(火)14:00 前売 2,500円 当日 2,800円

**第二夜**  
◆谷崎潤一郎『春琴抄』 朗読：大栗幸子 世良久美子(朗読パフォーマンスユニットCR) 三味線演奏：川瀬山里(生田流琴曲正統社大師範) 11月14日(月)14:00 前売当日共 2,000円

## 損保ジャパン日本興亜 人形劇場 ひまわりホール

名古屋市中区丸の内3-22-21 損保ジャパン日本興亜名古屋ビル19F  
※名古屋市営地下鉄「久屋大通駅」西改札①番出口より徒歩3分。  
※駐車場はございません。公共交通機関もしくは最寄のコインパーキングをご利用下さい。



**お問い合わせ  
ご予約先**  
☎ 052-212-7229 愛知人形劇センター 平日10:00~18:00  
✉ mail@aichi-puppet.net  
🌐 http://aichi-puppet.net/

※お問い合わせはなるべくメールにてお願いします

照明/寺島久美子(オイスターズ) 主催/特定非営利活動法人愛知人形劇センター 協賛/損害保険ジャパン日本興亜株式会社